

## 2008年3月期 中間決算説明会 取締役常務執行役員 阿部 和彦 説明要旨

### 2008年3月期 中間決算短信補足資料：概況

- 株式会社カプコン 2008年3月期、中間決算の詳細を説明いたします。2008年3月期の中間決算の特徴でございますが、コンシューマ用ゲームソフト事業とコンテンツエキスパンション事業は非常に好調でございました。それに対して、業務用機器販売事業とアミューズメント施設運営事業が不調に終わっているという状況でございます。
- 更に詳細を申し上げますと、コンシューマ用ゲームソフト事業の中でも国内は非常に好調でございました。「モンスターハンターポータブル 2nd」のリピート出荷や、「逆転裁判 4」を始めとする「逆転裁判」シリーズのリピート出荷、それから「バイオハザード 4 Wii edition」などのロンチがございまして、計画を大きく上回っております。一方で海外でございますが、やはり昨年の「デッドライジング」に象徴されるような大型タイトルが無かったというところで、販売単価の高いヒット商品がございました。その結果、前年比では数字で落としているというような状況でございます。ただ、当初計画は上回っておりまして、まずまずの成績だと考えております。
- コンテンツエキスパンション事業ですが、パチスロ機「デビルメイクライ 3」の販売等が貢献して、大きく数字を伸ばしているという状況です。一方で業務用機器販売ですが、ドンキーコングの発火事故の影響等ございまして、計画を大きく下回り、赤字を計上しております。現在、品質向上の仕組みを含め、事業の再構成を行っているという状況です。
- またアミューズメント施設の運営事業ですが、天候不順、競合他社の競争結果、そういった影響などにより既存店が数字を落としている状況です。これにつきましても、改善に向けた努力をしているという状況です。以上を踏まえまして、昨年度の実績と比べると大きく上回ることはありませんでしたが、期初の計画、および修正計画を大きく上回っておりまして、まずまずの決算だったというふうに認識しております。以上が決算の簡単な概況であり、以降具体的な数字で説明したいと思います。

### P.4-8 中間連結損益計算書

- 昨年中間との実績の対比になりますが、売上、営業利益共に上回っております。ただ、経常利益、純利益は下回っております。こちらは円高の影響で発生した為替差損が主な原因でございました。
- 次に、第1四半期決算時に発表した修正後計画との対比表になります。こちらにつきましては、全項目とも計画を上回っております。修正発表後も一部のコンシューマタイトルで想定以上のリピートがあり、売上利益共に貢献しております。
- 続きまして、事業セグメント別の実績対比表です。こちらの詳細は辻本社長からご説明頂きますが、簡単にご説明しますと、コンシューマ用ゲームソフト事業は全体からすると微増でございました。それに対して、コンテンツエキスパンション事業は大幅な増加になっております。業務用機器販売事業でございますが、こちらは大幅に減少であり、全体観では若干の増収であったという現状でござ

ざいます。

- 続きまして、地域別のセグメントの状況に移ります。ご覧の通り、日本が非常に好調でしたが、一方で欧米が数字を落としております。欧米では先程私が説明しました通り、昨年の「デッドライジング」のような大型タイトルが無かったというところを勘案すると、欧米も計画は上回っている状況です。また北米地域での開発が本格化しておりまして、若干経費が先行しているというところもございました。

#### **P.9-11 中間連結貸借対照表**

- それでは、中間期の貸借対照表の説明をさせていただきます。まずは全体観からいきますと、資産が50億円弱、減少しております。一方で、負債の方が約80億円の減少しております。トータルで純資産35億円増というのが中間期の貸借対照表になります。
- これを項目別にご説明させていただきます。まず、現預金、こちらが約27億円の減少、これに対しましてゲームソフト仕掛金が約28億円の増加になっております。前期末には「モンスターハンターポータブル2nd」や、「ロスト プラネット」などの大型タイトルがあり、こちらがロンチされたことによりまして、期末でのゲームソフト仕掛品が減少しておりました。一方で現在は08年、09年のタイトルの開発を進めておりまして、ゲームソフト仕掛品が増加しているという状況でございます。
- 続きまして、負債の部に移ります。まずは新株予約権付社債ですが、約31億円の減少となっております。こちらは株式に振り替わっております。また、長期借入金が短期借入金に振り替わっております。現在のユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の残高ですが、10月末現在では21億円、今現時点では18億円強であり中間期より更に3億円程転換されております。全体の転換率でいきますと、約84%となります。

#### **P.13 中間連結キャッシュフロー計算書**

- それでは中間の連結キャッシュフローの方に移ります。まず、営業キャッシュフローでございますが、約31億円の減少となっております。こちら先ほどご案内の通り、ゲームソフト仕掛金が増加しており、約35億円の増加。それから仕入債務の減少、これが約18億円、この数字が加わりまして営業キャッシュフローにつきましては、2億円と前年比で大きく落としているという状況です。
- 一方で、投資活動のキャッシュフローでございますが、前年は企業買収など行っておりましたが、今期はそういったものはございませんでした。また貸付金の回収約10億円ございました。この結果前年と比べますと26億円の投資キャッシュのプラスという状況です。
- 財務キャッシュフローでございますが、今回自己株を取得しておりません。その関係で12億円のマイナスという数字でございます。

#### **P.15 財務活動の基本方針**

- 最後に財務活動の基本方針についてのご説明をしたいと思います。現在、事業ごとに計画の再構築を行っておりまして、その戦略に基づきまして資源の再配分を行う方針にしております。特にゲームソフト仕掛品が期末から比べますと約 30 億円強増えておりますが、これは 2008 年度、それから 2009 年度にかけてましてコンシューマ開発、オンライン開発などといったところで投資を増加させていく方針です。もちろん投資したら必ず回収するというのが前提でございますので、徹底したコスト管理、および投資管理を実行しているところです。
- 現在、手持ちの現金が 320 億円ございまして、それに加えて 150 億円のコミットメントラインがございます。手元流動性である程度手元資金は確保しているという状況でございます。今後は、2009 年 3 月に償還を迎えます 150 億円の転換社債がございます。この対策を含めまして資金調達の検討を進めていきたいというように考えております。具体的な資金調達のスキームについてはまだ決めておりません。今後検討してまいります。

以上で 2008 年 3 月期中間決算の詳細の説明を終わらせていただきます。